

## 病害虫防除技術情報第8号

### イネいもち病薬剤(MBI-D剤)耐性菌の対策について

平成18年 9月 7日  
三重県病害虫防除所

県内のほぼ全域でMBI-D剤のいもち病耐性菌が確認されました。  
次年度の防除暦作成にあたり、MBI-D剤の代替剤を検討してください。

#### 1 経過

MBI-D剤(シタロン脱水酵素阻害型メラニン合成阻害剤、商品名:ウイン、デラウス、アチーブ)は、いもち病防除のための箱施薬剤として広く使用されています。平成13年に佐賀県でいもち病のMBI-D剤耐性菌が発見され、以後西日本や関東の一部、東北地方でも耐性菌が確認されています。

本県でも平成17年に一部の地域でMBI-D剤耐性菌が確認されたので、本年は県内各地の耐性菌の分布調査を行いました。

#### 2 調査結果

県内25市町の水田から葉いもちを採集し、科学技術振興センター農業研究部でイネのいもち病菌を分離、PIRA-PCR法によりMBI-D剤耐性菌の検定を行いました。その結果、別表に示したように調査地点の55%、分離病斑の43.5%から耐性菌が検出され、別図のとおりほぼ全域で発生していることが確認されました。

#### 3 今後の対応

- (1) MBI-D剤による防除効果の低下が懸念されますので、本剤の使用を避け、作用性の異なる薬剤を使用して下さい。(病害虫防除の手引き適用表の左端に薬剤の系統分類が示されていますので参考にして下さい)
- (2) 自家採種は、種子伝染によって耐性菌の拡散をより進めます。このため、種子更新を徹底すると同時に、種子消毒を励行して下さい。
- (3) 県では耐性菌の分布状況の推移を把握するため、MBI-D剤を対象に耐性菌の検定を継続します。

別表

### 2006年イネいもち病菌のMBI-D剤耐性検定結果

三重県科学技術振興センター農業研究部循環機能開発研究課

市町	(採取地点数あたり)			(採取病斑数あたり)		
	採取地点数	耐性菌検出地点数	耐性菌地点率	採取病斑数	耐性菌検出病斑数	耐性菌病斑率
桑名市	4	1	25.0	5	2	40.0
いなべ市	6	4	66.7	11	6	54.5
木曾岬町	1	0	0.0	2	0	0.0
東員町	1	1	100.0	2	2	100.0
四日市市	9	9	100.0	16	16	100.0
菰野町	6	4	66.7	11	6	54.5
朝日町	1	1	100.0	1	1	100.0
川越町	1	0	0.0	1	0	0.0
鈴鹿市	15	7	46.7	30	12	40.0
亀山市	5	4	80.0	10	5	50.0
津市	15	8	53.3	30	10	33.3
松阪市	13	6	46.2	29	7	24.1
多気町	2	0	0.0	3	0	0.0
明和町	5	2	40.0	11	4	36.4
大台町	1	0	0.0	2	0	0.0
伊勢市	8	1	12.5	15	1	6.7
鳥羽市	サンプル無	-	-	-	-	-
志摩市	2	0	0.0	6	0	0.0
玉城町	5	1	20.0	10	1	10.0
度会町	1	0	0.0	2	0	0.0
南伊勢町	サンプル無	-	-	-	-	-
大紀町	1	1	100.0	2	1	50.0
伊賀市	20	15	75.0	37	24	64.9
名張市	6	4	66.7	13	7	53.8
尾鷲市	1	1	100.0	4	4	100.0
紀北町	1	1	100.0	1	1	100.0
熊野市	1	1	100.0	1	1	100.0
御浜町	サンプル無	-	-	-	-	-
紀宝町	サンプル無	-	-	-	-	-
	131	72	55.0	255	111	43.5

別図

### イネ いもち病菌に対する MBI-D剤耐性菌の分布

